

# 森の時間 ⑩

—山形大学農学部から  
みなさんへ—

9月は知床の森にいま月に知床が世界自然遺産した。ヒグマへの警戒をに登録される前の、国民怠らないよう注意しつつ、斜里町ウトロの国有林に学生とともに入りました。車を駐めたところから40分間歩いて現場に到着。太いミズナラやイタヤカエデ、トドマツが混じる針広混交林が広がり、その林床(森林の地表面)には苔むした切り株や朽ちた残材が点在していました。そう、ここが知床騒動の現場です。今から30年ほど前に日本国中を騒がせた「知床国有林伐採問題」を憶えていらっしゃる方は多いでしょう。2005年7

## 森の正直さ

—知床の30年から見えてきたこと—

菊池 俊一

に保護すべきであるとする自然保護派の対立にマスコミが加勢したという構図でした。北海道の東端の知床を舞台に森林施業と森林生態系の保全、国立公園における自然保護、林野行政のあり方等々、日本の森の取り扱いをめぐる重要な論争が展開されました。

とができるのか」といった声がにわかに高まり、有志による伐採地調査の実施が程なく決まりました。

初回の調査は伐採4ヵ月後の1987年8月に、現地に行きました。現地に方形の固定調査地を3ヵ所設け、そこに生育するすべての樹木の種やサイズを調査しました。その後、5年ごとに同様の調査を繰り返して行ってきました。30年目となる今年には、当研究室学生と北海道大学農学部森林資源生物学

・院生が夜な夜な一部屋に集まり、熱い議論を始めました。一つ先輩だった故小山浩正氏もその一員でした。論点が多岐にわたることから、真に学際的なディスカッションが繰り広げられていた覚えがあります。

そして迎えた1987年4月、知床国有林で伐採が行われました。3日間、530本(北見営林支局の発表)の樹木が折伐され、その一本一本がハリコブターで吊り下げられて集材・搬出されました。伐採実施を知った学生・院生からは「折伐された知床の森は、今後どのように推移するのか」、「その森を実際に見ずして議論を深めるこ

とができるのか」といった声

た声

に



知床国有林折伐跡地における調査の様子。調査区に生える樹木の高さや太さ、枝張りを一本一本計る(2017年9月16日、菊池俊一撮影)

・院生が夜な夜な一部屋に集まり、熱い議論を始めました。一つ先輩だった故小山浩正氏もその一員でした。論点が多岐にわたることから、真に学際的なディスカッションが繰り広げられていた覚えがあります。

研究室、北大森林科学科3年生、北大林学OBの総勢40名の参加で7回目の調査をついに先行いきました。ヒグマに遭わずに生還でき、ホッとしているところでした。

人

・院生が夜な夜な一部屋に集まり、熱い議論を始めました。一つ先輩だった故小山浩正氏もその一員でした。論点が多岐にわたることから、真に学際的なディスカッションが繰り広げられていた覚えがあります。

研究室、北大森林科学科3年生、北大林学OBの総勢40名の参加で7回目の調査をついに先行いきました。ヒグマに遭わずに生還でき、ホッとしているところでした。

人

人

・院生が夜な夜な一部屋に集まり、熱い議論を始めました。一つ先輩だった故小山浩正氏もその一員でした。論点が多岐にわたることから、真に学際的なディスカッションが繰り広げられていた覚えがあります。

研究室、北大森林科学科3年生、北大林学OBの総勢40名の参加で7回目の調査をついに先行いきました。ヒグマに遭わずに生還でき、ホッとしているところでした。

人

人

知床国有林折伐跡地における調査の様子。調査区に生える樹木の高さや太さ、枝張りを一本一本計る(2017年9月16日、菊池俊一撮影)

・院生が夜な夜な一部屋に集まり、熱い議論を始めました。一つ先輩だった故小山浩正氏もその一員でした。論点が多岐にわたることから、真に学際的なディスカッションが繰り広げられていた覚えがあります。

研究室、北大森林科学科3年生、北大林学OBの総勢40名の参加で7回目の調査をついに先行いきました。ヒグマに遭わずに生還でき、ホッとしているところでした。

人

本紙ホームページでもカラー写真が閲覧できます。